

Title	印度におけるInternational Darwin Dayへのビデオ参加(2月12日)
Sub Title	Video participation to Darwin Day Symposium
Author	渡辺, 茂(Watanabe, Shigeru)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2011
Jtitle	Newsletter Vol.16, (2011. 7) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000016-0071

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

印度における International Darwin Day へのビデオ参加

Video Participation to Darwin Day Symposium

(2月12日)

全く未知の Samuel JK Abraham 博士から突然メールが送られてきた。内容は2月12日(ダーウィンの誕生日)に印度で行われる Darwin's Day のシンポジウムにビデオ参加でもいいから参加して欲しいというものだった。これは International Darwin Day Foundation が企画したもので、僕もよくわからないが、米合衆国においても Darwin week という行事などが行われたらしい。特に米国において進化論はなお多くの攻撃にさらされているので、ダーウィンの誕生日に因んで進化論および科学的な考え方の正当性のキャンペーンをするようなものらしい。このシンポジウムでは本来、オンラインでの討論をしなくてはならないのだが、当日は先約があり、ただビデオを送るだけならば参加できるといったところ、それでも構わないということなので GCOE 研究員の一方井さんに手伝ってもらってビデオ収録をした。東館6階のビデオ設備は大変整っており、それらしいビデオを送ることができた。もっとも全く聴衆のいない舞台上で講演するのはかなり奇妙な経験だったが。

内容は性選択と美学に関するもので、すこし前に同じ趣旨の講演を巴里でしているの、より進化に力点を入れた講演にした。日本学術会議の雑誌「学術の動向」にも類似の論文『動物の美学—比較認知科学のアプローチ—』を載せているので興味のある方は参照されたい。

論理と感性の研究において進化的な研究は随分迂遠な研究だと思われるかもしれないが、感性はもとよりわれわれの論理もまた

系統発生的随伴性(選択圧)によって形成された部分があることは否定できない。しかし、一方において形式論理はわれわれの日常推論における生態学的制約を解放したと考えることもできる。今後、本拠点においてもさまざまな問題の進化的起源が明らかにされることを望むものである。

12th February is birth day of Charles Darwin. There were several events to celebrate the birth day all over the world including USA where evolutionary theory has been still attacked. One of such celebrating events was Darwin Day Symposium in India. Dr. Abraham asked me to contribute to the symposium. Unfortunately, I was busy on that day and decided to send a vide lecture to India. I talked on sexual selection and aesthetic. On January I gave a similar lecture in Paris, so this time emphasized Darwinian approach to aesthetics.

Study of phylogenetic contingency or evolutionary origin is crucial to understand human logic and sensibility. I hope our GCOE clarify the evolutionary origin of many aspects of human logic and sensibility.



Introspection in Humans, Animals, and Machines

ヒト、動物、機械における内省

(5月15日 三田キャンパス東館6階G-SEC Lab)

2011年5月15日、東館G-SEC Labにてシンポジウム“Introspection in Humans, Animals, and Machines”が開催された。メタ認知や意識の問題につながる、現代の認知科学でも注目を集めている話題の「内省」をテーマに、ヒト、動物、ロボットの各分野からの研究者が議論を行った。本シンポジウムの当初の予定は、人文グローバルCOE拠点リーダーの渡辺茂教授が知り合ったフランスENSの Jérôme Sackur 准教授を招聘するものであった。しかしながら、準備中に発生した東日本大震災の影響で Sackur 先生は来日予定延期となり、急遽講演ビデオを送付いただいたの開催となった。この他、日本人話題提供者5名による各1時間の講演が行われ、充実した内容となった。

渡辺茂教授による開会挨拶の後、午前のセッションは動物の認知研究の話題が中心となり、まず宮田裕光が動物のプランニング能力に関する研究を紹介した。次いで京都大学の後藤和宏博士から、動物のメタ認知から内省能力を探るアプローチの研究動向が示された。さらに帝京大学の草山太一講師より、霊長類および鳥類における自己鏡映像認知の知見が紹介された。午後はヒトおよびロボットのセッションと題し、まず慶應大CARLSの増田早哉子助教が、ヒトの内観が不完全または報告困難である事例について紹介した。続く Sackur 先生のビデオでは、反応時間報告などの古典的な心理実験課題を用いつつ、被験者の内観を検討する研究が紹介された。最後に、慶應大システムデザイン・マネジメント研究科の前野隆司教授から、感覚質としての意識を幻想体験と

みなす限りにおいて、意識を持つロボットは作れるのではないかという提案がなされた。哲学や文化的視点も含めた多彩な内容の総合討議がなされた後、渡辺教授の閉会挨拶となった。

私はこうしたシンポジウムの幹事を任されるのは初めてだったので、当日を除くとアレンジの事務的な部分が勉強だった印象であった。途中で震災やそれによる計画変更もあった中、今回の結実は私自身の一里塚でもあり、分野を跨ぐこのような討議の機会が意識探求の結節点ともなっていくことをも予感できた一日であった。(宮田裕光)

A symposium on introspection was held on 15th May, 2011. Professor Sackur provided a video lecture and five speakers introduced studies on introspection and consciousness in humans, animals, and robots.

